大阪市立大学グリークラブ
九〇周年記念フェスティバル

2017年1月14日(土)

12:45開場／14:00開演

いずみホール

ご　挨　拶

大阪市立大学グリークラブ部長
徳重 孟範

皆さま、本日はご来場頂きまことにありがとうございます。
私たち大阪市立大学グリークラブは長きに渡って、この大阪の地で合唱活動を行って参りました。大阪市立高等商業学校、大阪商科大学時代から歴史を刻んできた当団は、まさに「大阪市立大学の成長と歩みを共にしてきた」と言えるでしょう。全盛期には80名ちかい団員を抱え、旧三商大交歓演奏会、大阪四大学交歓演奏会など活気溢れる華やかな活動が続きました。
しかし、1990年代を境にその栄華に暗雲が立ち込めます。時代の流れにより合唱人気が低下、部としての存続が危うい水域にまで部員数が減少したのです。その苦闘期を乗り越え、現在は総団員数14名になりました。
毎年の定期演奏会はもちろんのこと、病院でのボランティア演奏や他団体との合同演奏会を始めとした対外的合唱活動も盛んに行なっています。また2年前からは南澪会合唱団の練習にも参加し、五つの男声合唱の集い（ANCORの会）や、旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会にも学生団員として加わっています。市大グリーは確実に全盛期の活力を取り戻し、再びその最盛期を向うまさにその途上にいると言えるでしょう。
私たちの市大グリーが近年に起こしたもっとも大きな変革を紹介しましょう。それは従来の合唱曲のみならず、「創造」をテーマに他の合唱団にはないようなダンスやアカペラ、BarberShopなど革新的なアイデアを演奏会に積極的に盛り込む新機軸を導入したことです。
もちろん今回の演奏会にもその要素は余す事なく組み込まれています。合唱人として、一方的に奏者が楽しむだけでなく、観客の皆様により深く私たちの演奏を楽しんでもらいたい。お互いにとって「忘れられない」演奏会を行い、合唱を通して多くの人と繋がりたい。その心を次代へ伝えていきたいと思います。
本日は、100周年の大舞台に向け、市大グリーの伝統を築き上げてきた100名を超えるOBと並んで演奏します。
演奏会を始めるにあたり、日頃から私たち部員を支援し続けてくれている南澪会を始め、様々な皆様方にこの場を借りて感謝申し上げます。
それでは、大阪市立大学グリークラブにしか奏でられない、重厚かつ繊細な響きをお楽しみください。

ご　挨　拶

南澪会会長　辻 秀郎

さて、この感激を何と表せばよいのでしょう?
今ここに、100周年の前奏曲ともいえる、創立90周年記念演奏会を開催できますことを、OB組織である南澪会の会長を拝命する身として、大変にありがたく、誇らしく感じております。
大正15年(1926年)に産声を上げたグリークラブが、昭和を生き抜き、平成を駆けつつ、90年の長きにわたる歴史を刻みつけてきました。それは、ただひたすらに歌を愛し、音楽を愛し、仲間を愛してきた歴代グリーメンたちの積み上げてきた金字塔でもあると思えます。物故者を含め、800名を超える人々の築き上げてきた歴史…それは支え続けてくださったすべての人々の重みでもあります。この重みを全身に感じつつ、本日はご来場の皆様に精一杯の感謝をこめて、老若の１００名を超えるグリーメンが歌声をお届けします。
どうかごゆっくり、ひとときをお過ごしいただきますよう…

大阪市立大学グリークラブ 九〇周年記念フェスティバルを祝す

大阪市立大学学長　荒川 哲男

大阪市立大学グリークラブ九〇周年記念フェスティバルが、盛大に開催されますことを心からお慶び申しあげます。

グリークラブは、大正から昭和に移り変わる年に大阪市立高等商業学校に誕生し、幾多の変遷をたどりながらも、90年の長きにわたって市大関係者のみならず、多くの皆様にその歌声で喜びと勇気と安らぎを与えてきたことと存じます。

また南澪会合唱団、東京南澪会合唱団はじめ南澪会の皆様方は、社会の第一線で活躍されている多忙な中にあって、共に歌い学んだ学生時代と変わらぬ情熱で幅広い合唱活動を続けられ、後輩の支援、また学生・OB間の交流と親睦を深めておられます。

皆さんの日頃の活動と練習の成果が、この記念すべき日を迎えられましたことは誠にご同慶に存じます。生活にゆとりと潤いがますます求められる今日、音楽を通じて心安らぐひとときをもつとともに、明日への大きな力を得ることは誠に意義深く、皆様方の男声合唱にそそがれる熱意と、たゆまぬ努力に深く敬意を表する次第です。

来たるべき創立100周年をめざして、市大グリークラブと南澪会がますます発展されますよう、また、今日この会場にお集まりの皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申しあげまして、お祝いの言葉といたします。

ご　挨　拶

南澪会合唱団団長　尾崎 納

本日はお忙しい中ご来場を賜り厚く御礼申し上げます。
今年は大阪市立大学グリークラブ創立90周年に当たります。加えまして、OB合唱団である南澪会合唱団の「第20回定期演奏会」でもあります。また、1940年に設立された当団は今年「喜寿」の年を迎えることになります。団員の年齢差は60歳にも及びますので、上手くハーモニーが醸し出されているか,じっくりと耳を傾けて下さい。

閑話休題、日本経済の関心事の一つに「観光立国」のことがあります。外国人観光客は順調に増えています。「爆買い」現象は収まってきているようですが、観光客の様々な消費が低迷する(?)日本経済を下支えしていることも事実です。

私たちの国は、時代時代の様々な事件で沢山の遺産を無くしていますが、まだまだ世界史的に見て特異な遺産も沢山残しています。これらを上手に残していくことが観光立国を目指す上で非常に大切なことです。また、これらの遺産が人類史を豊かで希望のあるものにしてくれることも忘れてはいけません。これら過去から現在に至る遺産を巧みにコラボさせ「観光創造」をすることが観光立国のために欠かせないものと思っています。

私達の合唱団も更に歳を重ね、遺産と同様にコラボに努め、個人と社会の豊かさに貢献出来るように頑張って行きたいと思っています。

ご　挨　拶

東京南澪会合唱団団長　鎌田 禮章

私ども東京南澪会合唱団は、2003年に大阪市立大学グリークラブのOBで東京周辺に在住する有志によって設立されました。発足当初の団員はわずか10数名でしたが、爾来13年、今では40名近い団員を擁するまでになり、まさに隔世の感がございます。

昨年11月13日には上野学園 石橋メモリアルホールで第6回定期演奏会を開催いたしましたが、お陰様で満員のお客様にご来聴いただき大成功を収めることができました。本日はその時のプログラムの一つであるシューベルトの「ミサ曲第２番ト長調」を、いずみホールのパイプオルガンを使用させていただき再演いたします。

この度は、90年という歳月をバックに現役グリークラブ、南澪会合唱団そしてOB有志の皆様と共にステージに立ち、歌えることを大変楽しみにしております。そして、私たちのモットーである「今こそ青春」の熱き思いと感謝の念を胸に精一杯歌わせていただきます。

Program

司会　篠原 真珠美

0.　オープニングステージ

男声合唱組曲　『月光とピエロ』より　　堀口 大学詩　清水 脩作曲
「秋のピエロ」
Ｍｎｏｇａｙａ　Ｌｙｅｔａ　　ロシア正教聖歌

指揮：藤田 徹夫

1.　ミサ曲　第２番ト長調　D167　　F.シューベルト作曲　W.トラップ編曲

指揮：小林 庄次郎
パイプオルガン：中村 文栄

2.　男声合唱組曲『山に祈る』　　清水 脩構成・作詞・作曲
山の歌
リュック・サックの歌　　指揮：山田 稔
山小屋の夜　　ピアノ：石幸 千照
山を憶う　　朗読：石田 康子・曺 明伸
吹雪の歌
お母さんごめんなさい

休　憩

3.　男声合唱による10のメルヘン『愛する歌』より　　やなせたかし詩　木下 牧子作曲
ひばり
ロマンチストの豚　　指揮：宮内 泰
海と涙と私と　　ピアノ：石幸 千照
地球の仲間
ユレル
さびしいカシの木
犬が自分のしっぽをみて歌う歌
きんいろの太陽がもえる朝に

4.　男声合唱組曲『明日へ続く道』　星野 富弘詩　千原 英喜作曲

君影草
もう一度
悲しみの意味
明日へ続く道

指揮：平松 朋記

ピアノ：石若 雅弥

5.　ファイナルステージ

あげよいざ　やすいよしお作詞

Singen heißt verstehet　並木 光敏・澁谷 和典作詞
安藤 由布樹作曲

指揮：宮田 菊俊

男声合唱組曲『雨』より「雨の来る前」　伊藤 整詩　多田 武彦作曲

指揮：上柴 克

『学生王子』より　「セレナーデ」　D.ドネリー作詞/S.ロンバーグ作曲
岩城 恵一編曲

指揮：山縣 真矢
ピアノ：高橋 敬一

Bridge Over Troubled Water
（明日に架ける橋）　サイモン＆ガーファンクル作詞・作曲
岩城 恵一編曲

指揮：杉原 浩太郎
ピアノ：高橋 敬一

斎太郎節　宮城県民謡/竹花 秀昭編曲

指揮：和田 哲哉

Program Notes

男声合唱組曲『月光とピエロ』より　「秋のピエロ」

昭和20年代始め、詩人堀口大学の詩に清水脩が、戦後初めての本格的な男声四部合唱組曲として発表した秀曲である。
戦後混乱期の世相の中で、クラシック音楽を愛好する人々に競って取り上げられ、関西合唱コンクールの課題曲にもなった。
今回歌う「秋のピエロ」は四部作からなる「月光とピエロ組曲」の第2曲目で、人生の深い喜びや悲しみを胸に秘めて、いつもおどけて人々の笑いを誘うピエロ、そして心密かに涙するピエロを歌います。

（解説　藤田 徹夫）

Mnogaya Lyeta　ムノガヤレータ

ムノガヤレータとは、スラブ語で「幾年も」という意味で、神の恩寵がいつまでもともにありますように！と、神をあがめ神の恩寵が幾年も遣わされますように---と祈願して歌われる聖歌である。
あたかも教会の高い尖塔から祈りの声が拡がって、堂内に満ちてくるように歌われる。今年90周年の記念がさらに周年を重ねてゆくことを願って歌います。

（解説　藤田 徹夫）

F. シューベルト　ミサ曲第２番（ト長調）D167

シューベルトは生涯で６曲のミサ曲を作曲していますが、この第２番は1815年3月2日から3月7日までの７日間で作曲されました、彼が18歳の時の作品です。
この年、彼はこのミサ曲以外に、歌曲約145曲（魔王を含む）、ピアノソナタ第１番、第２番、弦楽４重奏曲、交響曲第３番、ミサ曲第3番等を作曲しており、O.E.ドイッチュによる作品目録によれば、大体、D130からD330まで、約200曲をこの年に作曲したことになります。
恐るべき若書き、そして速や書きはまさに天才のなせる業ですが、そのためでしょうかこの曲に関してはやや不自然な音が散見されたり、作曲したミサ曲全部にわたってクレドのテキストの１節 (Et unam sanctam catholicam apostolicam eclesiam)が欠落しており、これは彼が用いたテキストに欠陥があったと考えられますが、これらは後の人によって手直しされ演奏されて来ました。
しかし、この曲の真価はこれらのことに少しも影響されない若々しい輝きと厳粛さを保っていることです。合唱と独唱の対比の見事さ、そして比類のない美しさを持つメロディー、まさに演奏する喜びに溢れた作品です。

ミサ曲は、キリスト教、カトリック教会のミサの儀式に用いられる音楽です。
初期キリスト教では単旋律の単純な音楽でしたが、次第に複雑なものになりグレゴリオ聖歌を経て多声部の音楽に発展していきました。
現在の形になったのは、1545年から18年続いたトレント公会議とそれに基づいて教皇ピオ五世が1570年に発布した『ローマ・ミサ典礼書』によって定められたものです。このトレント公会議はいわゆる「反宗教改革会議」で、ルターやカルヴァン等の宗教改革に対抗するために教会の刷新と典礼様式の統一を目指したものでした。
これによって、ミサ曲のテキスト（歌詞）も統一され、このテキストと一字一句異なってもミサ曲として認められないことになりました。この決まりは400年の長きにわたり続けられ現在演奏されるクラシック作曲家によるミサ曲は殆どこの様式を用いて作曲されています。
現在カトリック教会で執り行われているミサは1962年のヴァチカン公会議で採択された『典礼憲章』と、それに基づいて1969年に教皇パウロ６世によって発布された『改訂ローマ・ミサ典礼書』によるものを使用していますが、テキストにそれぞれの国の言葉を用いてもよいなどの改訂が行われています。
ミサ曲は歌ミサと呼ばれる通常のミサ曲のほかに、特別な儀式に用いられる「荘厳ミサ」、短縮された「ミサ・ブレーヴィス」、死者のための「レクイエム」があります。

ミサ曲の構成

・Kyrie	憐れみの讃歌	主よ、あわれみたまえ
・Gloria	栄光の讃歌	神に栄光あれ
・Credo	信仰宣言	唯一の神を信じます
・Sanctus	感謝の讃歌	聖なるかな万軍の主
・Benedictus	感謝の讃歌	誉むべきかな、御名によって来る人は
・Agnus Dei	平和の讃歌	神の子羊よ、平安を授けたまえ

（解説　小林 庄次郎）

男声合唱組曲『山に祈る』

“山に祈る”という合唱組曲は、もともと男声四重唱と小管弦楽のために書かれたものですが、現在では、移調などをして多人数の合唱団用に改編されています。

昭和34年秋、長野県警察本部では、山での遭難の頻発に業をにやして、遭難者の遺族たちの手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行して遭難防止を訴えたそうです。

山の歌を主要なレパートリーのひとつにしていた男声ヴォーカルグループのダーク・タックスは、その巻頭に載った、上智大学山岳部の飯塚陽一君の遭難を、同君の残した日誌と、同君の母親の手記によって一遍の合唱組曲につくる企画を立て、作詞作曲を清水脩氏に依頼しました。

作曲当時44歳の清水脩氏は、次のように語っています。

「一遭難者が書き残した最後の手記と、我が子をなくした母親の朗読と歌とで進めたものであるが、曲はできるだけポピュラーなものにしようと努めた。誰もがすぐに口ずさめる平易なメロディーで埋めた。主人公の元気な姿から死にいたる筋に合わせて、明るい曲調から次第に暗い曲調へと移ってゆくようにした。

雪山登山とその遭難について、できるだけうそのないものを書きたい。また私自身の山への思慕も盛った。そしてこの曲が頻発する山の遭難防止に少しでも役立てば、作者として望外の喜びである。」

（解説　山田 稔）

男声合唱のための１０のメルヘン　『愛する歌』より

「アンパンマン」の絵本や、「手のひらを太陽に」の歌詞で有名な、やなせたかし氏の詩集「愛する歌」をもとに木下牧子氏が1995年に女声（同声）二部合唱「愛する歌」として出版。2013年、東京経済大学グリークラブの委嘱により、男声合唱曲として編曲され、初演されました。木下牧子さんによりますと、「複雑な響きを好む自分の作品の中で、この曲集は例外的にシンプルと言えるかもしれない。やなせさんの詩は、物語性があり、親しみやすいですが、優しい一面シニカルでしみじみペーソスも漂い、それが大人の疲れた心に深くしみこんでいく」とあります。

やなせさんの「すべてのものに対する優しさ」を暖かく歌い上げられたらいいと思います。

＜ひばり＞小さな命であるひばり。必死で月をめざす。空のはてまで上れたがそこで死んでしまう。やなせさんのひばりに対する思いが歌われます。

＜海と涙と私と＞やなせ氏が少年時代に２人で遊んだ弟が学徒出陣で海軍士官となりバシー海峡で撃沈され23歳で亡くなる。「海をみるたびに、悲しみと懐かしさの入り混じった心になる」というやなせ氏。

＜さびしいカシの木＞とおくの国へ行きたいと雲に頼んだり、いっしょにくらしてと風に頼んだりするが思うようにならないことも。孤独に慣れ、小さな幸せを感じつつ、微笑みながら立っているカシの木。人生、深く考えさせられる曲。

(解説　宮内 泰)

Program Notes

男声合唱組曲『明日へ続く道』

人は生きていると、それぞれの理想の人生論を持つようになるものだと思います。自分にとって何が最も大切なのかということも分かってきて、いつしかそれをひたむきに守りながら生きようとします。それは夢かもしれないし、家族であるかもしれません。

体育教師であった星野富弘さんは、不慮の事故によって首から下の自由を失いました。このあまりに悲しい出来事は、彼を長く苦しい絶望に突き落としましたが、いつしか彼はその口に筆をとり、絵と詩をかき始め、それはまさに才能が開花したような、深みと実直さに溢れたものになりました。

「明日へ続く道」の曲集に込められた詩と音楽は、星野富弘さんが苦しい挫折を経験し立ち直るまでのストーリーを私達に想像させます。

(解説　平松 朋記)

あげよいざ
Singen heißt verstehet

「あげよいざ」、「Singen heißt verstehen」は、どちらも日本最古のアマチュア男声合唱団のひとつ、東京リーダーターフェル1925の日々の合唱活動から生まれた、乾杯の歌です。

「あげよいざ」は、団員がテーブルを囲んで酒を酌み交わす場面では、必ず歌われます。現在は韓国語バージョンまであります。

「Singen heißt verstehen」は、直訳すれば「歌うことは理解すること」となるのでしょうか？少し硬く感じられますが、1970年代に開催されたドイツ合唱祭のテーマだったようで、これも歌、酒、友情の歌として日本で作詞作曲され、男声合唱団ベルリンリーダーターフェル1884の創立130周年記念に贈呈されました。

どちらもこれからの市大グリーの新しい愛唱曲になってくれればと願い選曲しました。

(解説　宮田 菊俊)

男声合唱組曲『雨』より　「雨の来る前」

多田武彦は、日本の男声合唱団員なら知らぬ者はいない作曲家のひとり。

いろいろな雨を題材にした六つの曲からなる男声合唱組曲『雨』は、数ある「タダタケ」作品の中でも特に人気の高いものの一つです。市大グリーの演奏会でも過去に何度も取り上げられてきました。その組曲の第一曲目がこの作品です。暑さ厳しい夏の午後――、急に黒い雲が現れ、今にも激しい夕立が落ちてきそうな、その一瞬を表現した作品ですが、そんな風景描写を通して、若者の前向きに生きようとするエネルギーを感じさせる名曲です。

(解説　上柴 克)

『学生王子』より　「セレナーデ」

ハンガリー生まれのアメリカの作曲家、ジグムンド・ロンバーグの代表作「学生王子」は、1924年にニューヨークのブロードウェイで初演されたミュージカル。その中でも最も有名な「セレナーデ」は、1989年６月27日、ザ・シンフォニーホールで開催された「第26回旧三商大交歓演奏会」の合同ステージに、岩城恵一の編曲・指揮で演奏した思い出深い楽曲です。主人公の王子が、学生下宿の娘に、自分の恋心を切々と歌いあげるラブソング。40年の長きにわたって市大グリークラブの音楽アドバイザーとしてご指導いただいた岩城先生は2015年５月９日逝去されました。

（解説　山縣 真矢）

Bridge Over Troubled Water　（明日に架ける橋）

1979年からアドバイザーとして長年お世話になった故・岩城恵一先生には、既製の合唱曲を紹介していただいただけでなく、洋楽などオシャレな曲を編曲していただきました。岩城先生のおかげでたくさんの音楽に触れることができました。私たちにとって、それらの音楽は宝物です。

『明日に架ける橋』もそんな宝物の中の一つであり、合唱祭など折に触れて取り上げていました。卒業してからも、もう一度大人数で歌うことができたらいいなと思っていた曲です。

フェスティバルのテーマの一つ「友情」にちなみ、現役もOBも「オールグリー」であり、困難があっても『I'm on your side.』「そばにいるよ」と言える仲間でありたいと願います。

（解説　杉原 浩太郎）

斎太郎節

「斎太郎節」は元は宮城県の民謡で、櫓漕ぎ歌やカツオ漁の大漁祝い歌として歌われたものと言われています。1965年（昭和40年）、当時東北学院大学グリークラブの学生指揮者であった竹花秀昭氏によって編曲された楽譜が、交歓演奏会の折に他団体に渡り、それが「グリークラブアルバム」に掲載されたことによって、男声合唱の定番曲として、広く歌い継がれることとなりました。

私の現役当時にも、部内だけでなく、他大学との交歓演奏会など、様々な場面で何度も歌ってきた曲の一つです。

今日のこのフェスティバルのため、たくさんのＯＢがこの舞台に集まりましたが、都合がつかず舞台に立てなかったＯＢも数多くいます。是非一緒に歌っていただきたいという思いを込めた愛唱曲として、選んだのがこの曲です。

(解説　和田 哲哉)

Proriles 指揮者

藤田　徹

1955（昭和30）年大阪市立大学文学部卒。元南澪会合唱団指揮者。加藤直四郎、金丸七郎、森啓一、山岸徹の各氏に指導を受ける。市大グリークラブ第3代指揮者をつとめ、ロシア民謡とニグロスピリチュアルズに傾倒。関西合唱コンクールではニグロスピリチュアルズを歌って第3位入賞、NHK大阪番組にも出演。団員リクルートに長け、グリー入団時の部員24名は62名になった。混声合唱燦（八尾市）主宰者。

大学入学当時、杉本町学舎は米軍に接収され、大学は学部ごとに大阪市内の小学校に分散、グリー部室も道仁小（旧南区）、靭小（西区）などを転々とした。蛸足大学と言われた市大の杉本町学舎を返せ、とプラカードを掲げ、大声をあげて御堂筋を梅田新道から難波まで練り歩いた時代が懐かしい。

小林 庄次郎

1958（昭和33）年大阪市立大学商学部卒。大阪府立住吉高校合唱団、大阪市立大学グリークラブ指揮者を経て、神戸中央合唱団等で合唱活動を行ってきた。2003（平成15）年発足と同時に東京南澪会合唱団の指揮者。年齢も生活環境も異なる仲間が集まって、男声合唱を楽しむ我々にとって、最も大事なことは「Philharmonie＝ハーモニー（調和）を愛する心である」と考え、これをモットーとしている。

グリークラブ創立30年目の1956（昭和31）年に私は副指揮者として「月光とピエロ」を担当し、杉本町の部室で仲間と一緒に楽しく歌っていました。当時の部室は外側が金網で遮られ、学園を接収していたアメリカ進駐軍が、ワンツースリーフォーの掛け声で行進訓練をしていました。それから、当時は想像もしなかった60年の長い歳月が流れ、創立90周年を迎えた今日、東京で集まった仲間と大阪の仲間と共に、故郷でまた歌えることは、何ものにも代えられない喜びと感じています。

山田　稔

1968（昭和43）年法学部卒.大阪府立桜塚高校音楽部指揮者を経て大阪市立大学グリークラブ指揮者。卒業後は豊中混声合唱団・阪急東宝グループ男声合唱団で指揮・合唱活動。2005（平成17）年から南澪会合唱団指揮者。高田三郎、鈴木憲男、清水脩氏等の邦人組曲を中心に、ミュージカル、ポップス等を愛する。モットーは「心で歌う」。

南澪会合唱団で指揮をさせていただき、早や10年が過ぎました。団員の皆さんの熱意に支えられて「音楽つくり」に専念することが出来ました。感謝しています。10年間で20ステージ以上指揮をさせていただきましたが、以前にも増して「心に音楽」を強く感じるようになりました。今後も気力・体力・健康が許す限り、「音楽つくり」を続けていきたいと思っています。「聴衆の皆様」の心に届く演奏を目指し続けて、指揮者をつとめたいと強く思います。

宮田 菊俊

1974（昭和49）年大阪市立大学文学部卒。愛知県立明和高校時代は混声合唱指揮者として活動。市大グリーでは、2回生より指揮者をつとめる。市大卒業以来、男声合唱団東京リーダーターフェル1925会員。同団入団以来、韓国男声合唱団との交流を推進、草の根の日韓文化交流に尽力している。また㈱音楽出版社代表として、月刊CDジャーナルなど刊行。永年にわたる音楽界への貢献も大きい。

昭和46～48年までグリーの学生指揮者でした。それ以降今日まで合唱活動は継続していますが、指揮はまったくしておりません。なぜ、そんなに指揮者でありたかったのか？今となってはまったく不可思議なことですが、今は下手なりに、歌うことに喜びを感じております。この90周年の後は、指揮はまた封印して、歌い手であることのみに専念したいと思います。

宮内　泰

1976（昭和51）年大阪市立大学理学部卒。市大グリーでは、2回生より指揮者を務める。卒業後、中学校教師として、吹奏楽の指導を続けた。在職中、男声合唱にも一時参加。2012（平成24）年南澪会合唱団復帰、指揮者をつとめる。JAZZ、ラテン、吹奏楽大好き。作曲家では、ベートーベン、モーツァルトが好きである。中島みゆき、尾崎豊を好み、男声合唱では、シーシャンティー、黒人霊歌、多田武彦が好き。最近、バーバーショップに興味をもっている。

90周年記念演奏会で指揮をやらせていただくことは、たいへん光栄に思っています。長年、吹奏楽中心にやってきたせいで、合唱界の最近の動きには疎く、発声についてももうひとつ自信がありません。まわりの先生方や先輩方からもっと学んでいかなければと思っています。音楽の楽しみを教えて貰った皆様方に感謝しています。自分自身、音楽する喜びをかみしめたいし、多くの方々に少しでも伝えられたらいいなと思って今日も指揮します。

上柴　克

1984（昭和59）年大阪市立大学文学部卒。グリークラブでの四年間で、オーソドックスな合唱曲のみならず、スタンダード・ジャズやポピュラーのナンバーにも触れたことで、自分の中の音楽の世界が質量ともに格段に広がり、大きな音楽的財産となっている。グリーの学生指揮者を３年間務め、卒業後はいくつかの合唱団で修行を積み、現在は、「合唱団PHENIX」の副指揮者として活動し、また高等学校の合唱部の指導にも当たっている。

とにかく音楽をやりたいと思って、大学ではグリークラブに入部した。交響楽団にも興味はあったが、ピアノ以外には楽器経験がなかったのでそちらは断念。大げさに言うと、これが私の人生を決めた。人の声の無限の可能性と、仲間とともに作品を作り上げる快感を知ってしまったのだ。良いトシになった今でも、それらを追い求めてバタバタしている。今日のステージでは、そんな私の原体験を再確認できるかもしれないと、まるで子供のようにワクワクしている。

山縣 真矢

1991（平成3）年大阪市立大学経済学部卒。グリークラブでは学生指揮者を務め、音楽アドバイザーの岩城恵一氏に指導を受ける。卒業後アジアを放浪。その後、編集者に。音楽誌『CDジャーナル』編集者時代には主にクラシック分野を担当し、世界の名だたる音楽家の謦咳に接する貴重な機会を得る。現在はフリーランスのライター＆編集者を生業に、東京・中野で細々と暮らしている。

50年の我が半生を振り返るにつけ、「“出逢い”こそが人生」と痛切に思う今日この頃。その「出逢い」から生まれる「交わり」が我が人生を豊かに彩ってくれた。まるで音符と音符が出逢い、言葉と旋律が出逢って「歌」が生まれるように、私たちは市大グリーで出逢い、共に声を交わらせてハーモニーを奏で、人生の肝要を学んだ。これまでの「出逢い」に感謝しつつ、新たな「出逢い」を求め、これからも命ある限り、森羅万象と交わっていきたい。

杉原 浩太郎

1993（平成5）年大阪市立大学文学部卒。現在会社員。中学校の学級対抗合唱コンクールで指揮をして以降、高校の吹奏楽部、大学のグリークラブでも学生指揮者を務めた。大学卒業後も、所属の合唱団体（南港混声合唱団、アンサンブル・エオリーナ、コーロ・リア・モデンナ）で指導者不在時の練習指揮を務める。

もともと音楽は好きで、エレクトーンやコントラバスなども経験しておりますが、大学でグリークラブに入り合唱をして、あらためてハモることの楽しさを体験できたことを覚えています。特に男声合唱は、ハモると倍音がきれいに聴こえ、それはまるで天使が「ごほうび」として一緒に歌ってくれているようです。今日もいずみホールに天使が舞い降りてくださることを期待しつつ歌いたい（振りたい）と思います。

和田 哲哉

2002（平成14）年卒団、大阪市立大学工学部卒。

市大グリークラブでは指揮者をつとめ、岩城恵一氏に指導を受ける。好きな合唱のジャンルはマドリガル、黒人霊歌。

グリークラブ在籍時は4年間を通して10人前後の部員で活動しており、3回生の時に、第50回定期演奏会でOB合同演奏会を開催したことが印象に残っている。

平松 朋記

和歌山県立向陽高等学校環境科学科卒。平成26年、大阪市立大学理学部生物学科に入学。入学後間もなく大阪市立大学グリークラブに入部し、しばらくして南澪会合唱団に学生団員として入団。南澪会合唱団ではOB各氏より合唱と指揮の指導を受け、時折南澪会合唱団の練習中に指揮を振るようになる。二回生の春より大阪市立大学グリークラブの正指揮となり、部活動の活発化と合唱技術の向上の両面に精を入れている。また二回生の夏より淀川混声合唱団に入団、トップテナーとして合唱コンクールにも出場している。

「自由には責任が伴う。」

大阪市立大学グリークラブに入部して少し経った頃、先輩がそう教えてくれた。当時は噛まずに飲み込むような気持ちでただ頷いていたが、今となっては日頃から考えるようになっている。私が指揮者になると決意したのはグリークラブを合唱団として上手くしたいからだった。自由な企画ステージをするなら上手い合唱をするのが責任だと思っているのは、今も同じである。今回は驚くことにいずみホールでの演奏となったが、私達は変わらず存分に楽しみながら質の高い音楽を皆様に届けられればと思う。

南澪会合唱団

大阪市立大学(旧制大阪商科大学)グリークラブのＯＢが集まって発足し、現在は広くＯＢ以外のメンバーも参加しているオープンな男声合唱団。練習は毎週土曜夜、大阪なんば。定期演奏会および旧商大ＯＢ男声合唱団交歓演奏会が２年に各１回、五つの合唱団のジョイントが毎年ですので、演奏会は毎年２回と、充実している。
ステージでご覧の通り、メンバーはわんぱく盛りの男の子ばかりだが、音楽と飲み会への情熱は誰にも負けない。
「歌のひびきは、森の隠れた生命、樹木の精を呼び覚まし、種子を刺激して花咲く園を作りだし、残忍な動物や人に礼儀と穏やかな好みの心を起こさせ、激流を静かな流れに変え、岩石をさえ律呂正しい舞踏の運動に引き入れる(ノヴァーリス「青い花」)」とある通り、歌は歌う人の心を健やか育てる。そのような団員に恵まれた合唱団で、最高の時間が過ぎてゆく。

東京南澪会合唱団

東京周辺に在住する大阪市立大学グリークラブOBを中心に2003(平成15)年に設立された男声合唱団。現在団員40余名。2006(平成18)年11月に第1回定期演奏会を大田区立「アプリコ」小ホールで開催。以来、隔年毎に定期演奏会を開催するとともに、旧三商大(一橋大学、神戸大学、大阪市立大学)OB男声合唱団交歓演奏会に出演。2016(平成28)年11月13日には上野学園 石橋メモリアルホールにて第6回定期演奏会を開催し、好評を博した。通常の時期は、毎月第２、第４土曜日の午後１時から４時半まで神田、中野近辺の教会等で練習を行っている。

大阪市立大学応援団

我々、応援団は体育会系から文化系の部活、サークルのステージの応援(鑑賞)を通して、大阪市立大学を盛り上げようとする学生25人の団体。そんな応援団とグリークラブ、一見して全く方向性の違う団体であるかと思えるが、「歌」や「声」を通して私たちの思いを届けようとするところは同じではないだろうか。歌い方には言うまでもなく、大きな違いがあるが、歌を通して元気や希望を届けようとする、そんな姿勢は一緒だ。90周年式典のお力添えができるよう、応援団らしく全力で声を出し、また100周年へと邁進できるよう、全力で応援させていただきたい。また、この様な場を設けていただいた南澪会の皆様、現役部員の皆様に、一同厚く御礼申し上げる。

Proriles 伴奏者・朗読者・司会者

石幸 千照

大阪芸術大学を学費全額免除生として卒業。同大学芸術専攻科終了。卒業時、演奏学科研究室賞受賞。卒業演奏会、関西新人演奏会に出演。第1回大阪国際音楽コンクール入選。
1999年秋期特別コースにて、A.イエンナー氏に、2001年マタイザー・ゾンマー・アカデミーにてG.ルードヴィッヒ氏に師事。
これまでに、故岡坂恭子、U.シュニーベルガー、平井令奈の各氏に師事。
2004年ジョイントリサイタル開催。2005年、関西フィルハーモニーオーケストラと協演。2006年、ロシアにて国立アカデミーオーケストラと協演。大阪芸術大学伴奏要員を経て、現在関西女子短期大学非常勤講師、ヤマハ音楽教室講師。 NHKコールマドリガル、金剛アマービレ、エトワールかしわら、ソルシェールのピアニストを務める。
ファニー・メンデルスゾーンクラブ大阪会員。全日本ピアノ指導者協会会員。

石若 雅弥

1981(昭和56)年大阪府堺市に生まれる。京都市立芸術大学作曲専攻卒業。これまでの出版楽譜は50冊近くにおよび、代表作に「こころの色」「ありがとう」「生きる理由」「君死にたまふことなかれ」、懐かしい日本の歌を新たにアレンジした「移りゆく季節」、アニメソング曲を気軽に楽しめるようアレンジした「アニソン・ファンタジー」、懐かしの歌謡曲をアレンジした「歌謡デラックス」(以上、カワイ出版)、金子みすゞの作品に作曲した「少女のまなざし」(マザーアース出版)、「こだまでしょうか」(カワイ出版)などがある。また、作品集のCD「こころの色 石若雅弥女声合唱作品集」(Giovanni Records)など7枚をリリースしている。現在、ウィングス、ぐみの木、コールいづみ、Chor.Draft、コール若葉、混声合唱団Shall We Sing?、Strings.Draft、Diva.Draft、ブーケ、La Couronne、レインボーコーラス、などの指揮者・音楽監督を努めるほか、多数の合唱団のピアニストや技術アドバイザーも担当。全国各地で客演演奏、講習会講師やコンクール審査員なども精力的に務めている。

高橋 敬一

大阪音楽大学ピアノ専攻卒業。母校にて7年間教育助手として勤務。1984年,1986年飯塚音楽コンクールにて本選入賞。96年、98年ブルーノ・ダル・モンテ氏、大塩チアキ女史のリサイタル「オペラ」の伴奏。97年東京青山のカワイ伴奏オーディションにて最優秀賞を受賞。
また、1987年から2011年まで市大グリーの伴奏を務め、その間定期演奏会以外に、1991年インターナショナル・ミュージック・フェスティバル(シドニーオペラハウス)の演奏や、旧三商大交歓演奏会でも伴奏。

中村 文栄

オルガン、チェンバロ奏者。上野学園大学音楽学部オルガン専門卒業。オルガンを小林英之、チェンバロ、通奏低音奏法を渡邊順生、戸崎廣乃、上尾直毅、辰巳美納子の各氏に師事。オルガニスト協会主催新人演奏会、サントリーホール デビューコンサート「レインボウ21」等出演。L.グリエルミ、Z.サットマリー、J-P.ルゲ各氏等の海外オルガンマスタークラスに参加、近年は定期的に渡伊しながら研鑽を積む。オルガンとチェンバロのデュオ「¡0613!」メンバー。現在、上野学園大学助教、昭和楽器春日部店 オルガン講師。

石田 康子

7年ほど前に「絵本の読み聞かせの講座」を受講し、朗読活動を始めた。絵本を読む時、絵本の好きな大人も子どもも、食い入るように絵本を見つめる眼差しに、優しさが広がる絵本の世界を共有していると感じる。この瞬間が大好きで、今も読み続けている。
今回の朗読では、子を持つ私にはとても悲しい別れの合唱曲である「山に祈る」のお母さん、先に逝ってしまった息子さんの無念さが心に沁みる。合唱団の歌声と共に、思いを伝えられればと思っている。

篠原 真珠美

ピアニストの母の影響から4歳よりピアノを始め、幼少期には金澤ピアノ塾、14歳より大阪芸術大学 江田縫子名誉教授に師事、クラシックピアノの基礎を学ぶ。また歌への気持ちも強く、7歳から地元合唱団に所属し、中学・高校とコーラス部に所属。小椋桂主催のミュージカルのバックコーラスを始め、様々なイベントで歌に関わり、18歳から大阪芸術大学眞野悦子教授に師事、クラシック声楽を学ぶ。現在、声楽グループ Musica Stella所属。出演及び司会、制作を担当。

Members

大阪市立大学グリークラブ

トップテナー	﨑山 弾(理4)	徳重 孟範(経3)	
セカンドテナー	篠原 悠天(経3)	曺 明伸(理2)	土山 颯太(法1)
バリトン	平松 朋記(理3)	江尻 竜優(理3)	中澤 篤哉(法2)
ベース	武田 和也(文2)	三橋 康平(工2)	玄 丞允(経1)

南澤会合唱団

トップテナー	尾崎 納	月川 兆	新 栄一郎	福家 伸治	長田 幸一郎
	森本 眞一	宝木 健一	松波 謙至		
セカンドテナー	藤田 徹夫	戸田 勝	白石 太良	今村 肇	山田 稔
	大内 一	宮内 泰	白井 清貴		
バリトン	服部 栄治	山内 荘作	横田 卓郎	瀧井 尚志	石原 潤一
	太田 一忠	花澤 光正	辻 秀郎		
ベース	森田 清	牟田 岑男	赤﨑 弘平	小倉 裕	安井 永
	和田 昭夫	松井 繁明	扇田 豊	海谷 叔伸	田中 彰一
	今道 隆夫				

東京南澤会合唱団

トップテナー	岡本 直久	鎌田 禮章	坂井 和久	原田 佳晃	
セカンドテナー	岡田 皓三	黒田 俊之	小林 庄次郎	里山 泰志	鶴田 観次郎
	富永 雅敏	野津 直樹	宮内 隆造	森谷 泰明	
バリトン	今井 啓太	梶谷 俊一	勝沼 亮	川上 彰一	木公 寧史
	木田 豊	祖父江 浩之	田中 利治	永田 利地	宗像 弘信
	柳原 恒久				
ベース	井上 嘉雄	上村 正昭	掛谷 正宏	北野 友一	中川 清
	平手 彰	柚木 裕文	吉岡 稔		

大阪市立大学グリークラブOB

トップテナー	齋藤 三朗	白神 理平	片山 孝	小倉 徹也	望月 豊
	田中 宏和	真木 豊太郎	杉原 浩太郎	奥保真一	戸谷 仁史
セカンドテナー	今西 弘一	熊代 厚生	宮田 菊俊	長谷部 資朗	上柴 克
	吉田 耕太郎	三輪 剛	山縣 真矢	友枝 勇樹	
バリトン	石井 欽三	中川 静雄	石川 健夫	谷岡 昇	松田 桂一郎
	藤田 雅大	棟居 秀信	井上 裕之	茂山 和基	高嶋 伸介
	小猿 智幸	和田 哲哉			
ベース	山縣 一晃	石黒 直文	宮田 潤	山本 榮三	鎌木 武男
	名和 秀記	信濃 学	城本 竜也	森田 昌之	吉田 洋一
	浅野 庄治				

大阪市立大学応援団

荒牧 亜燈羽(文3)	楠橋 一希(文3)	並川 徹(商3)
青陰 麻那(文3)	木村 美紀(文3)	小池 桃(文3)
佐井 鈴佳(文3)	岩崎 陽佳(生3)	吉永 綾(文3)
野口 雄貴(工2)	森 翔一(理2)	高倉 拓海(理2)
尼本 聡美(医2)	植村 直樹(工1)	霜辻 大地(工1)
藤原 大輔(経1)	蓬台 祐希(法1)	宮武 力(文1)
濱田 渓太(文1)	木山 もも子(経1)	中平 枝歩(経1)
石田 真子(商1)	竹崎 舞子(文1)	福田 彩華(文1)

大阪市立大学グリークラブ九〇周年記念フェスティバル実行委員会

委員長　大内 一　　副委員長　辻 秀郎　徳重 孟範

庶　務　和田 昭夫　松井 繁明　扇田 豊　白井 清貴　富永 雅敏　田中 宏和

会　計　森本 眞一

ステージマネジャー　友澤 一雄　　ロビーマネジャー　辻野 敏雄

祝 大阪市立大学グリークラブ 90周年記念フェスティバル

全学同窓会は各同窓会と連携・協力し
「楽しくて、ためになる」同窓会
「頼りになる」同窓会　をめざします

大阪市立大学同窓会（全学同窓会）　会長　児玉隆夫

有恒会（文系学部同窓会）・理学部同窓会・工学部同窓会・医学部同窓会
生活科学部同窓会・看護系よつば会・創造都市研究科同窓会

大阪市立大学グリークラブ創立９０周年
おめでとうございます

雷対策のＯＴＯＷＡグループ
NIPエンジニアリング株式会社

企業理念

我々は雷に強いエンジニアリング会社を目指し、
顧客に最高技術で最大の安全安心を提供し、
社会の発展に貢献する
明るく楽しく自由闊達で、社員の喜ぶ会社である

代表取締役社長　吉田耕太郎
（1987年グリー卒）

本社事業所　尼崎市名神町3-7-18
TEL　06-6424-3651　FAX　06-6424-3655
札幌　仙台　東日本　名古屋　大阪　四国　広島　福岡

est.1926 anniv.90th